

---

# 遊戯王 コスモス

sasami

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王 コスモス

### 【Nコード】

N8927Z

### 【作者名】

sasami

### 【あらすじ】

ジャック・アトラスがデビューして間もない頃、全く関係ない場所である少年の運命が動き始めようとしていた。その少年はデュエルは強いのだが  
(オリカ多数)

## 漂流者（前書き）

何とか投稿できました……………。

タイトル名が『コスモス』なのは、カオスの対義語だったという単  
純な理由です。

## 漂流者

とある島のある村

『……キングは一人……この俺だ!!』

ライディング・デュエルの中継を映しているモニターから、そんな声が聞こえてきた。

「最近よく見るよなー、こいつ。」

「ジャック・アトラスだろ？出て来て間もないのにもうトップだぜ？」

「こいつ、結構強いんだよね。今まで負けてないし。」

モニターの前で少年達はそのような会話をしていた。

「でも、あいつのほうが強いよな。」

「ああ、あいつの方が強えな。」

「あいつ強えのになー……」

少年達は同じ人物の話で溜め息をついた。

とある島の海岸

村の少年達がため息をついていた頃、その話題の少年は……

「なんか釣れねえかな……」

……釣りをしていた。

「最近あんま大物釣れねえんだよな……おっ!？」

釣り針に何かが引っかかったようだ。

「これは久々の大物か!?絶対釣りあげてみせる!！」

少年は急いでリールを巻き続けた。

「うおらああああ!!!」

そして少年が釣りあげた物は……人だった。

「……水死体？」

その釣り上げた人物は、何故か甲冑を着ていた少女だった。

少年はその人物の顔を見た後、

「……………」

海に戻した。

「せめて安らかに眠れ……………、それじゃ、釣りを再開しようか。」

少年はそのまま釣りを続けた…。

〈END〉

「ちょっと待て—————!!!!!!」

「うおっ、びっくりした!!」

海から流れてきた人物は、海から少年の所に歩いてきた。

「貴様、此処は何処だ？そしてなぜ海に戻した？」

少女は少年に詰め寄り、問い質す。

「えーっと、此処はファロン島、海に戻した理由は水死体だと思っ  
て海に戻したから。」

「何故水死体だと決めつける!？」

「海から流れてきて甲冑着てたら普通助からないんじゃないか？」

「鍛えていれば問題ない！」

「そういう問題なのか？……まあいいけど、俺は釣りを続けるからじゃあな。」

少年は釣り道具を持ってその場を立ち去ろうとする。

「だから待てと言っている。」

少女は少年の服の襟を掴む。

「船を借りたい。あと数日分の食料もいただきたい。」

「別にいいけど、何すんだ？」

「我が祖国に戻るのだ。今すぐ戻らねば……」

「なんかあったのか？」

少年は少女に問いかけてみる。

「……我が祖国が何者かの手によって侵略された。その侵略者のトップは『自分にデュエルで勝てれば国は返してやる』と言っふざけた事をぬかした。我が祖国はデュエルの強者が多数いるのだが、皆敵わず……」

「……」

「そこで私は、修行に伴い、救援を求めこうして旅をしているのだが、結局助けになるであろう者は見つからず、こうして祖国に戻る

うとしているわけだ……。」

「つまり、あなたの国の人たちが皆弱くて、デュエルで勝負を持ち掛けられたもののそれでも敵わず、強い奴に頼ろうとしたけど、結局あては見つからず虚しく帰るってことか。」

少女にはその言葉がグサツと刺さった。

「そういう時はデッキとか再構築した方がいいんじゃないか？」

「……その程度で事が済めば問題ないわ！！！！……。」

少女はその場で倒れこんだ。

「大丈夫か？」

「……何か……食べ物……を……。」

少女は腹の音を立てながら眠りについた。

「……釣りはかかったんだけどな……。」

少年は少女を抱えて村まで運ぶことにした。

「今日も収穫なしか……。」



（ファロン島・とある村）

「……………はっ！！」

少女は目を覚ました。

「おっ、目が覚めたか。」

少年は料理を持ってきていた。

「ここは……………」

「寝ていたからとりあえず俺の家まで運んでおいた。ほらよ。」

少年は少女にチャーハンを渡した。

「……………何故チャーハン？」

「簡単に作れるから。」

少女はそんなものか？と疑問を抱いたが、腹の虫が鳴ったのでとりあえず考えるのをやめて食べることにした。

「……………予想してたよりうまいな……………」

「それはどうも。」

「貴様、名は何と言いつ？」

「須王彩斗。」

「そうか、礼を言う、スオウ。」

「んでお前は？」

「私はマリアと言いつ。」

「ふん……それじゃマリアさん、なんであなたは甲冑なんか着てるんですか？」

彩斗はマリアの甲冑について質問する。

「私は騎士団に所属してるからだ。」

「はあ……。」

「こちらからも質問させてもらつ。スオウ、貴様はデュエルは強いのか？」

「まあ強いほうだと思っけど？負けたことないし……。」

「ならば我が国の救援として来てくれまいか？」

「無理。」

「なっ、何故だ!？」

「理由として3つ、まず俺にとってメリットはない。」

「報酬なら出さず。」

「2つ目は、俺は釣りをしていたい。」

「我が国にも釣りをする場はある。」

「理由が2つ消えたな……。」

「それで残り1つはなんなのだ?」

「ああ、3つ目は……、」

この後、彩斗は恐らくとんでもない事を口走る。

「俺はデッキを持っていない。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8927z/>

---

遊戯王 コスモス

2011年12月28日02時04分発行